
少女遊戯と閉じた国

糸川しなの

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

少女遊戯と閉じた国

【Nコード】

N3836D

【作者名】

糸川しなの

【あらすじ】

何事も完璧にこなす双子の姉・真秀^{まほ}をもつ主人公・偏^{かたは}は、ある日懐かしい夢を見る。そしてその日から、真秀の行動に恐ろしさを覚え……。これは狂気と愛情が交錯する少女達の物語。

オモイデ機械

甘い雨が降っていた。

「真秀」

「うん？」

「これで、おしまいなの？」

「そうよ」

「×××は壊れちゃったの？」

「そうよ」

雨は私と真秀の頭に平等に降りかかる。いつもママに鼻厘されて
いる真秀もずぶ濡れだ。

「ねえ、偏」

「なあに？」

真秀は小さな唇に人差し指をあてる。

「今日のコトは二人だけの秘密だよ。×××を隠した場所も、ね」

「うん！もちろんだよ」

「誰にも言っちゃ駄目だよ」

私にとって真秀は女王様だった。私はいつだってその言葉の通り
にして成功していた。

真秀の言う通りにしなければ。

「絶対絶対言わない！」

「じゃあ、真秀の命令ね。“ゼーんぶ忘れなさい”！」

「はいっ」

ゼンブワスレナサイ

大きく首を上下に動かす私に、真秀は満足そうに笑った。

小さな唇から小さな逆三角形の尖った歯が覗いて、ふと、まるで

悪魔みたいだと思った。

「ああ、私の偏」

真秀はいつものように私をぬいぐるみにする。ぎゅっとしすぎゅと、綿が出そう。

私の髪に埋もれながら真秀は囁いた。

「ずっと一緒にいようね」

「うん」

ゼンブワスレナサイ

そもそも別れる時なんて考えつかない。

あっ、でも

「壊れるまで一緒だよ」

真秀の体が少し強張った気がした。

ゼンブワスレナサイ

どうしてだろう？

「…うん、そうだね」

優しい真秀の声を聴きながら私は目を閉じた。

ゼンブワスレナサイ

「服の絵の具がとれないよお」

「それは絵の具じゃないよ、偏」

ゼンブワスレナサイ

「えっ、そうなの？じゃあこれはなあに？こんなにきれいな赤い色

…」

ゼンブワスレナサイ

「それはねゼンブワスレナサイゼンブワスレナサイゼンブワスレナサイゼンブワスレナサイゼンブワスレナサイ

ねえ、それは何なの？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3836d/>

少女遊戯と閉じた国

2011年1月16日00時52分発行